

令和三年度「水の週間」

第四十三回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」入賞作品集

水  
に  
つ  
い  
て  
考  
え  
る



福島県 復興・総合計画課

## あいさつ

水は、あらゆる生命を育み、多様な生態系を維持するとともに、大地に豊かな実りを与え、多彩で美しい自然環境をつくりあげるなど、私たちの生活には欠かすことのできないものです。

また、水は限りある資源であり、水環境を守ることは、私たちの豊かな生活を維持していくうえで不可欠です。

本県には猪苗代湖や裏磐梯湖沼群をはじめとして、豊かで美しい水環境が各地にあります。代々受け継がれてきた地域の宝を守り、後世に伝えていくことが重要です。

県では水に対する関心を高め、一層の理解を深めていただくことを目的に、八月一日の「水の日」及び、八月一日から八月七日までの「水の週間」の行事の一環として、「全日本中学生水の作文福島県コンクール」を昭和五十四年より毎年実施しています。

四十三回目を迎えた今回、県内の中学生から四百十四編のご応募をいただきました。

どの作品も、家族との体験や日常生活を通して感じた貴重な水に対する想いや、水と人との関わりを通して魚や生物に影響を与える水の環境問題を考えたり、コロナ禍における水の重要さを訴えるなど、皆さんお一人お一人が、貴重な財産である水としっかり向きあって真剣に考えていただいていることが伝わってくるものとなりました。

この作品集を読んで水について考えるきっかけにさせていただくとともに、皆さんが身近にある美しい水環境を将来に受け継いでいく貴重な人材となられるよう願っています。

結びに、今回の作文コンクールに応募された多くの中学生の皆さんや担当の先生方に心から御礼を申し上げます。

令和三年十月

福島県企画調整部長 橘 清司

優秀賞

目次

(作品は、各賞ごとの作者名の五十音順に掲載しています。)

水について考える	.....	矢吹町立矢吹中学校	三年	青山 星空	1
美しい水を未来へ	.....	いわき市立大野中学校	三年	大和田 陽奈	3
父と私をつなぐ水	.....	会津若松市立一箕中学校	三年	佐藤 空成	5
水への恩返し	.....	会津若松市立一箕中学校	二年	塚田 暖菜	7
未来への一歩	.....	葛尾村立葛尾中学校	三年	渡辺さくら	9



## 優秀賞

### 水について考える

今、地球温暖化が問題になっていますが、私たち人間を含めた生物が生きていくのに必須の「水」にも深刻な問題がいくつも存在します。

地球は水の惑星と言われていますが、地球上にある水の中で飲み水として利用できる真水がどのくらいあるのか調べたところ、地球上の九十八%が海水で真水である淡水は二%しかなく、しかもその大部分は南極や北極にある氷山であり、私たち陸上生物が利用できる真水は全体の〇・〇一%にも満たないことがわかりました。

さらに、人命に関わる水の問題も起きているようです。現在、世界の七億人の人々が水不足の生活環境の中で生活しているそうです。水を得ることができずとも、不衛生な水しか得られず病気になり毎日数千人の子供が亡くなっているとのこと。

実際に、水不足の地球では干ばつや地下水の減少、湖沼が小さくなるなど、食糧を作るための農業用水が十分に得られず、食糧不足になっています。

私の周囲では、蛇口をひねれば飲み水が出るし、好きな時にシャワーを浴びることが出来ます。また、飲むことの出来る水で洗車をしたり、夏になるとプールで楽しんだりしているから自分とは関係ないことだと思っていました。

しかし、調べると、地球規模の水不足が起きている原因は、アメリカや日本、ヨーロッパなどの先進国の水の大量消費にあることがわかりました。日本も水の大量消費国なので、私の周囲の状況から水不足を認識できないのも仕方ないのかもかもしれません。さらに大きな問題として、ほとんどの物を輸入に頼っている日本は、輸入先の国がその生産

矢吹町立矢吹中学校 三年 青山あおやま 星空きょくせい

に必要な水を間接的に消費しているという事です。例えば、日本は大豆、牛肉などを大量に輸入しているのです、水も間接的に消費しているのです。

私達の住んでいる日本は、田んぼなど多く農業用水も整備されています。田植えのシーズンになってくると、田んぼは水を豊富にたたえています。このような水が豊富にあると勘違いしてしまう生活環境の中で、私は地球規模の水不足に対して、どうしたらよいかを真剣に考えてみました。

ところが、真剣に考えれば考えるほど、結局は幼い頃より現実味を感じないながらも、しきりに言われていた、身近な「節水」が自分たちにできる水不足対策ではないのではないかと思いました。

シャワーの出しっぱなしを無くす、洗面は洗面器に水をためて行う、風呂の残り湯を再利用して使う洗濯、水洗トイレの水量をしぼる、少し思い出しただけでも小さい頃から、節水について言われ続けていたことを改めて感じました。自分自身のこととして、しっかり認識していなかっただけなのです。また、水が汚染されてしまうと、使える水が減りさら

に水不足になっていってしまいます。汚染させないためにも、ごみなどを水に捨てないようにするなど環境に配慮していくことも、水不足を解消するための対策になるのではないかと思います。

今回、水の間接消費を新たに知ることができたので、これまでの身近な「節水」に加えて、水を汚染しないようにするために環境に配慮していくこと、またできる限り国内産の物を買うことにより、海外での水の消費量も減っていくのではないかと思います。何より大切なことは、私たち一人一人が水不足を自分のことと認識して、「節水」などに取り組んでいくことだと思いました。

## 優秀賞

### 美しい水を未来へ

水のある生活を、ありがたいと思ったことはあるだろうか。水を飲み、洗い物をし、お風呂に入る。これは皆さんにとっての当たり前ではないだろうか。

私も、少し前までは水のある生活を当たり前のことだと思っただけで生活をしてきた。しかし私の住む地域を台風が襲い、水道局がその被害に遭った結果、水は水道からでなくなつたのだ。幸いにも、我が家には井戸があり、お風呂や洗い物の水などには困らなかつたが、井戸のない友人の話では、洗い物の水を繰り返し使つたり、お風呂に入れないため銭湯に行つたりと、大変な苦勞をしていたそうだ。この水のない生活がいつまで続くのか、皆先の見えない状況に立たされ不安を抱えていた。二週間程で水道局が復旧し、水道から水がでるように。このような体

験をし私は水に興味を持ち始めた。

そして調べていくうちに、地球ではおよそ六億六三〇〇万人の人が水不足に陥っていることが分かった。そしてそのような地では子供が学校に通えなかつたり、汚水を飲み毎日八〇〇もの命が失われていたりしているという現状を知り、なんとかしなくてはならない、と考えた。そのため、まず水不足の「原因」を調べた。

一つ目は「人口の増加、産業の発展」である。人口の増加に伴い水の使用量も同じく増加。また生活に必要な水が増えた結果、生活排水や工場排水が多く流出し、限りある水資源の汚染につながつてしまつているのだ。

二つ目は「気候変動」だ。使用可能な水は、降水量の変動などに左右されるため、とても不安定であ

いわき市立大野中学校 三年 大和田 陽奈

る。更に、地球温暖化がこの不安定さに拍車をかけているのだ。降水量だけでなく、雨の強さや頻度も温暖化により大きく左右させられる。そして雨だけでなく、気温上昇による積雪の減少などにより、春夏の水源地をも減らしているのだ。

最後に三つ目、それは「水源が守られていない」ということだ。都市化により水田が消失したり、森林伐採をしたことよって水の蓄積をしていた森も減少したりと、水源が破壊されている。また、一つ目で紹介したように、生活排水、工場排水により本来は使えるはずだった水を汚染していつている。日本のように浄水処理が備わっていない世界の地域も多く、そのような場所では一度汚染された水はそのまま汚染水として使用する他なくなってしまうのだ。

そして次に「対策」だ。

まず水の使用量を減らす、つまり節水を心がけるとのことだ。洗濯、食器洗い、お風呂、料理などで使う水を最低限に抑えて使おうと意識したことはあるだろうか。流しっぱなしにはしない、食器洗いの際は水をためて使うなどといったことができる。

更に、お風呂の水を入浴のたびに使い捨てるのではなく、もう一度沸かして入ったり、花の水やりに使ったりといった、たくさんの工夫をすることが可能だ。

次に水源を守る、生活排水の汚れを減らすことだ。洗い物の汚れを流す前に新聞紙か何かで拭き取る、油などをそのまま流さない、といったこと。また、シャンプーを使いすぎないようにしたり、環境負担物質の少ないものを選んだりするなどといった工夫ができる。

たったそれだけのことでは変わるわけがない、と思う人も多くいると思う。確かに、一人がやっただけではどうにもならないのかもしれない。しかし、多くの人がこの小さなことを続けていけばきっと、水不足の解消に繋がる、私はそう思うのだ。そして何より、気候変動も、水源が守られていないのも、すべて人間が作り出した原因であるというのに、その人間である私たちがこの状況を変えていかないと誰が変えるというのだ。変えられるか、ではない。変えていかなければならないのだ。



## 優秀賞

### 父と私をつなぐ水

「水」と聞いて私が真っ先に思い浮かべるのは、父の存在だ。

今の日本は蛇口をひねるだけで、安全でおいしい水が出てくるのが当たり前だ。しかし、世界では、安全な水が手に入らない国の方が多いと言われている。だからこそ、私達は水を大切に、そして、感謝しなければならぬものだ。知っているはずだ。しかし、私にはもう一つ知ってほしいことがある。それが、私の父の存在だ。

私の父は、福島県の大川ダムで働いている。大川ダムでは、災害を防ぎ、私達の生活に欠かせない飲み水や、農業用水を蓄えている。他にも、水力発電を行い、私の住む会津若松市や、東北、東京にも電気を送っている。私の父は、

「皆にとってなくてはならない仕事なんだ。」

と、教えてくれた。父は自分の仕事にやりがいを感じ、責任をもって仕事をしている様子を、その時強く感じた。そんな仕事をする父を、私は誇りに思う。しかし、たった一度だけ、父が働く理由が分からなくなってしまったときがあった。

二〇一九年、十月十二日、台風十九号が、日本列島を直撃し、日本に甚大な被害をもたらしたことを、覚えているだろうか。その時、福島県は、大雨特別警報が発表され、雨が地面を叩き付ける音が響き、木が倒れてしまいそうなくらいの強風が吹いていた。そんな中、父は大雨で川が氾濫しないよう、ダムへ向かった。こんな時に出かける父を見送って、私は不安で押し潰されそうだった。父が留守の今、長男である自分が家族を守らなくてはいけないと分かっていた、分かっていたが、心の中では父が

会津若松市立一箕中学校 三年 佐藤 空成

私のそばにいてくれたら、どんなに安心だろうなど  
と思っていた。父が皆のためにしている仕事を、皆  
は知っているのだろうか。父は大丈夫だろうかと心  
配で仕方がなかった。しかし、いつでも避難ができ  
るよう、準備をするために歯磨きをしようと思っ  
た。歯磨きをするために蛇口をひねった。いつもと  
何一つ変わらない水、そう思っていたが、そのとき  
は何かが違うような気がした。私はすぐに、それが  
何か分かった。同時に、なぜ今まで気付かなかった  
のだろう、とも思った。蛇口から出てくる水は、ず  
っと私と父をつないでくれていたのだ。父が私達の  
ためにダムに蓄えて置いてくれた水が、蛇口をひね  
ることで、私のもとへ届く、そう気付いたとき、私  
は一人ではないと思えた。今、父は私達の命を守る  
ために必死に働いてくれている。ならば、私も何か  
しなければならぬ、そう思い、力強く蛇口をしめ  
た。

それから、何度も何度も、記録的な大雨が日本  
を襲った。その度に、父は休みであろうと、仕事へ  
向かう。そして、私はその度に、父を尊敬する。

私にとって水は、父の思いやりが詰まった大切な  
ものだ。それは、私だけではなく、日本国民全員に  
共通することだと思う。だからこそ、水を無駄にし  
てはいけないのだ。ただの水かもしれないが、その  
ただの水には、ダムや浄水場などで働く人達の思い  
やりや願いが込められている。そのことを、私はも  
っと多くの人に知ってほしい。今まで私は、水を大  
切に扱い、感謝してきた。それ以上、自分にできる  
ことは何もないと、勝手に決めつけていた。しか  
し、今の私は、中学生の私だからこそできることに  
気づかされた。それは、水に感謝できるのは、誰か  
の努力があるからだということ、水を大切にでき  
るのも、誰かが大切にできるような存在の水にして  
くれたからだということ、この作文を通して、い  
ろいろな人に発信していくことだ。

新型コロナウイルスから日常を取り戻すために、  
これからも水で手を洗おう。そうすれば、明るい未  
来がやって来るだろう。大雨の後、空に大きな大き  
な虹が架かるように。

## 優秀賞

### 水への恩返し

私達人間の身体の六割は水で構成されており、産まれた時から水と共に生き、成長し、命が燃えつきる最期の瞬間まで身体の中で寄り添って生きてくれます。日々身体の中で、温かく見守り包み込んでくれる水に、私達は何を返せるでしょうか。マイクロプラスチックによる水の汚染、東日本大震災による汚染水、生活排水での水質汚染等、私達は水を大切にすることで、汚して恩を仇で返していることが多いのではないのでしょうか。

水を必要としている生き物の中で、水を汚し、他の生き物にまで犠牲を強いるのは、私達人間だけです。今から六年前、道端を歩いていると、用水路からフワッと風に乗った汚臭が鼻に届きました。ブクブクと泡立ちながら、用水路に生活排水が流れ込んでいたのです。泡の下で赤い何かが蠢いていまし

た。目を凝らして見ると、ザリガニでした。小さな子供のザリガニも、卵を抱えた母親ザリガニの上にも容赦なく生活排水が降り注いでいたのです。こんなにも汚染された場所にも生き物が精一杯生きていくことに驚き、悲しくなりました。あれから六年後、ザリガニは一匹もいなくなっていました。残っていたのは、六年前と何も変わらない泡立った生活排水と、鼻につく汚臭だけでした。

目を閉じて想像してみてください。もし自分があの川に住むザリガニだったら。もし私達に降り注ぐ雨が生活排水のように臭く有害だったら。生き物達はただ一生懸命生きているだけなのに、何故私達人間のせいで、罪無き生き物達が犠牲にならなくてはいけなかったのでしょうか。水は私達人間だけの物ではありません。植物も他の生き物にも無くてはならな

会津若松市立一箕中学校 二年 塚田 つかだ 暖菜 ぬるな

い、とても大切な地球からの恵みなのです。水は私達人間に対して、どう思っているでしょうか。人間が生きていくためには必要不可欠な存在なのに、感謝されず、一方向に汚され、水不足になったら文句を言われ、洪水や津波の時には恐れられます。水にもし感情があつたなら、人間に対し怒っているでしょうか。それとも、もっと大切にしてと嘆き悲しんでいるでしょうか。あなたの目の前の水は、無言で何を私達に訴えてきているでしょうか。

震災や断水の度に、水の大切さが身に染みます。コロナ禍の今、手洗いうがいなどで感染対策できるのも水のおかげです。しかし、日々の忙しい生活の中で、水を大切にする気持ちは時間と共に頭の片隅に追いやられていきます。どうしたら水の大切さを忘れずに心に刻めるでしょうか。私は、たった小さな一歩でも出来る事から続けようと思い、節水シートを作って水場の近くに貼り、毎日意識づけることにしました。トイレのレバー近くには「小で流すこと」と、洗面場や台所には、「大切な水」というように、手書きの水のイラストと共に一言添えてシール

を作って貼りました。その結果、シールが家族の目にも入ることになり、水道代が下がり、家族皆が水を大切にする日々が続くようになりました。少しは水に恩返しできた気がして嬉しかったです。今日の水は、特別に美味しく感じられました。

いつも当たり前前に家族のように側にいてくれる水。蛇口を捻ればすぐに会える水。毎日、飲み水、風呂、トイレ、洗濯、料理等、無くては生きていけない水。世界中で水道水が飲める国はわずか十五ヶ国しかありません。現在の日本が、世界に誇れる水準の綺麗な水に会えるのは、過去の方々の努力の結果だと思えます。私達は未来へ、この美しい水を繋げることができでしょうか。それとも、負の遺産として未来の私達の子供達に背負わせるのでしょうか。積水成淵<sup>せきすいせいえん</sup>、水を大切にする一人一人のわずかな行動でも、積み重ねれば、大きな力になると思います。何気ない日常を支えてくれる水に、感謝の気持ちをもち、少しずつでも恩返しすることが私の目標です。

## 優秀賞

### 未来への一歩

葛尾村立葛尾中学校 三年 渡辺<sup>わたなべ</sup> さくら

「これはオキアミだね。」

理科の環境授業で、顕微鏡を使い、煮干しの胃の内容物を観察しました。先生に聞いたところ、煮干しの胃の中からオキアミを発見することができました。カタクチイワシが食べたものを見ることができると面白くて、夢中になって観察してしまいました。オキアミは成長段階によって変態し、エビのようなものもあれば、ミジンコのようなものもありました。

集中して観察していると五ミリメートルほどの白い紐状のものがあることに気がつきました。何だろーうと不思議に思い、先生に聞いてみるとプラスチックの可能性があるといます。すぐにスライドガラスに紐状のものを取り出し、ガスバーナーで加熱しました。すると、すぐに丸まって溶けてしまいま

した。紐状のものがプラスチック片だということがわかりました。こんなに小さいカタクチイワシの身体の中にプラスチックが取り入れられていたことに、驚きを隠せませんでした。それと同時に、プラスチックを食べているということは、他の魚や動物もそれらを食べている可能性があるのではないかと不安な気持ちにもなりました。

このことをきっかけに全校生五人で、「煮干し（カタクチイワシ）の胃の内容物から考える海洋汚染」をテーマに研究を進めることにしました。私たちは、海洋の表層には、密度の低いポリプロピレンやポリエチレン等がゴミとして漂っていると考えました。胃の内容物を水に浮くかどうかでプラスチックの可能性のある物体と他の物体に分類しました。次に、浮いた物体を加熱して、溶けた場合は、プラ

スティックであると判断します。煮干し六袋、九百グラムの胃の内容物を調べました。その結果、プラスチック片四個が見つかりました。白色、緑色、茶色など色は様々で、長さは、四から八ミリメートルの小さなものでした。これが、夏休みに煮干しの胃の内容物を観察した結果でした。

私たちが、使用するプラスチックが、ゴミとして捨てられ、海洋を漂い、カタクチイワシの体内に取り込まれていたのです。ペットボトルは、海底で分解されるまでに、約四百年かかると言われています。この長い年月の間、食物連鎖を通して海洋生物の体内にプラスチックゴミが循環し続けます。未来の海は、プラスチックゴミにより、生態系が崩れ、死の海になってしまうかもしれません。

研究を通して、海洋の生態系を守るためには、私たちの暮らしをプラスチック使用に頼らないものにし、ゴミを減らして海洋汚染の問題を早急に解決しなければなりません。

プラスチックを無くすために自分たちができることを行っていくこうと決めました。物を買ってもレジ

袋ではなくマイバックを使うこと、マイボトルを持ち歩くことです。それらは、洗って何度でも使えます。このように一回使って捨てるものより、何度でも繰り返し使える物にシフトしていけば、プラスチックゴミが減り、綺麗な海が保てるのではないのでしょうか。そうすれば海に生きる生物も安心して暮らしていけるはずです。ウミガメや海鳥がプラクチックを誤飲してしまうニュースなどを見ると心が痛くなります。プラスチックは消化されず、生物の胃の中に溜まり続けてしまうそうです。そのために満腹状態と錯覚し、餓死してしまうと耳にしました。一人一人の行動が世の中のプラスチックゴミを減らすことに直結していくのです。

海は、世界中の国と繋がっています。世界中の人々と一緒に、エコな生活を心掛けて、美しい未来の海を守っていききたいです。これが、私たち葛尾村立葛尾中学校生五人が発信する、未来への第一歩です。私たちと一緒に美しく安心して暮らせる海を作っていきましよう。

## 入選

### 水の大切さ

去年の終わり、僕の家の水を吸い上げるポンプが壊れてしまいトイレの水が流れなくなってしまう。年末で会社がほとんど休みなので部品が入るのがお正月が終わった一月四日になるといわれてしまいました。

それまでトイレはどうなるんだろうととても心配な気持ちになりました。せつかくのお正月なのにトイレが使えなかつたらどうしようと思いました。

そして、お父さんが業者さんに確認したところ非常用のレバーを使ってトイレを使うことを教えてもらいました。

けれど、いつもトイレが終わると自動で水が流れていたのが、トイレが終わってからトイレ脇のレバーを手でグルグル回して吸い取った後、ペットボトルにくんである水を流さなければなりませんでし

た。

夜とかトイレに行きたくなると、大変なのであまり飲み水とか飲まずに、トイレに行きたくなっても少しがまんしていました。

僕は、お正月にこの経験をして思ったことは、トイレだけで本当によかったなと思いました。

もし、トイレだけでなく生活に使う台所やお風呂の水までも使えなくなってしまうたら家があってもお風呂も入れずご飯も作れずどこかに避難してお正月を迎えることになってしまったかもしれないと思うといつもあたり前に使っていた水の大切さがよくわかりました。

僕の家は、お米を作っていますが、よく五月の田植の前になるとおじいちゃんやおばあちゃんが田んぼに水がきているかどうか確認したり、雨があまり

矢吹町立矢吹中学校 二年 飯島いじま 礁しよあ

降らないと今年の田植は大丈夫かなと話をしていた事を思い出しました。水は、いつもの生活でも使いますが毎日食べるお米を作るのにも大切な役目をしていることを考えることもできました。

雨が降らない年は、ダムの水がカラカラになってしまい田んぼにも水がこなくなりせつかく苦労して植えたお米の苗もかれてしまいお米もとれなくなってしまうそうです。

僕は、雨の日だと外で遊んだりできなくなったりサッカーもできなくなってしまいうのがっかりする日もあります。雨が全て降らないと大変なことになってしまふんだと思いました。

そして、少し前におばあちゃんが、小学生が書いた新聞の記事を持ってきてくれました。

その内容は、その子のおじいちゃんはご飯を食べた後、おちやわんを洗わずにそのままそのおちやわんでお茶を飲んでいて書いてありました。その理由は、昔はお皿を洗う水も大切にしていたので一回食べるごとにお皿を洗わずにその中にお湯を入れてなるべく水も使わないようにするためだと書いてあ

りました。僕は、それを読んで昔の人は、水でも食べものでも、今よりも簡単に手に入らないので大切に、使っていたんだなあと思いました。

僕もこれからは、昔の人のようにはできないけれど今よりも水を出しっぱなしにしたりしないでもう少し大切に使うと思えました。お正月に水が使えなくなってしまうって大変だったけれど、水の大切さや昔の人達の大変さを知ることができました。そして家の中だけでなく外でも水の大切さを忘れずに大事にしてむだな使い方をしないようにしようと思いました。



## 入選

### 水の今の状況

みなさんは水がなににどんなふうに使われているか分かりますか？水は、生活用水、工業用水、農業用水などに使われているそうです。しかし今世界中で川や海、地下水が減っています。いわゆる水不足におちいつているのです。そこで僕は限りある水をこれから先どう使えばいいかを考えていきたいと思っています。

まず、なぜ水が減るのでしょうか。その理由の一つは、山の自然林が減ったからです。かつての山は針葉樹や広葉樹などいろいろな木が生え、長い時間をかけ大木が育っていました。そんな自然林の地面には光が注ぎ、草や葉っぱを含んだやわらかい土となり、地中にたくさんのお水を含み、時間をかけて雨を川へと送り出していました。しかし、太平洋戦争の時代、必要な建物や燃料として使うため多くの木

矢吹町立矢吹中学校 三年 大竹<sup>おおたけ</sup> 祐正<sup>ゆうせい</sup>

が伐採され、自然林がまる裸になってしまいました。ですが、戦後、産業として使う木を増やすため、植樹に多くの補助金が支給されるようになりました。こうして山々には再び多くの若木が植林されました。多くの山々は杉を中心とした人工林へと変わっていききましたが杉を大量に植えた日本の山々でしたが、自由貿易が始まり、安い輸入材が大量に市場に回るようになり、杉の市場価値が下がってしまいました。つまり、日本の杉は需要が無くなったのです。売れないから、切らない。という時代になってしまったのです。切らなくなった人工林は放置されるようになりました。密集した人工林は、枝打ちや間伐などの手入れをしないと地面に光が届きません。そんな地面には、草が生えず、土が固くなり、雨が降っても水を吸い込みません。雨は地表を

一気に流れてしまいます。人工林で覆われた山の保水が失われたことで、日常的に川へ送り出す水量が減り、川の水量が減少していったそうです。

また、もう一つの理由として地球の砂ばく化があげられます。今、地球では陸地面積の約六分の一が砂ばく化の影響を受けているのが国連環境計画の調査で分かったそうです。砂ばく化の原因の一つは雨が降らないなどの気候の変化によるものです。土地に対して多すぎる家ちくの放牧や、土地を休ませることなく作物を作り続けることなど、人びとの活動のほうが、実はもっと直接的な砂ばく化の原因になっているそうです。

最近では、「地球温暖化」が、水資源に大きな影響をあたえています。気温が上がると地域によって降水量が減ったりします。

このようなことをまとめると、僕たち人間が、限りある水資源を減らしていることが分かると思います。しかし、水を増やすことだって出来るのです。例えば、「間伐」です。間伐が進めば、太陽の光が地面まで届き、下草が生い茂り、水を吸い込む地面

を増やせます。山から川へ流れ込む水の量も増えていきます。また、「地球温暖化」も一人一人が意識をすれば抑えることもできます。誰もいない部屋の電気は消す。テレビのつけっぱなしはやめる。近場であれば車の使用は控え、自転車や徒歩で移動する。など一人一人の意識で水は増えていきます。水が増えることで命も助けられます。アメリカやインドでは地下水が枯れて農業用水が十分に得られなくなり、農地が減り始めています。つまり、水不足になることは食糧の不足へとつながるのです。

今の水の状況は決してよいとはいえません。これから僕達は自分が出れることを行い、水資源を増やしていくことがこれからの世界にはとても大切なことです。みなさんも明日から実践してみましよう。

## 入選

### 水の歴史と思いを受け継ぐ

私たちの生活は、綺麗な水によってできています。炊事や洗濯などの家事や工業、農業においても、生きていく上で欠かせない存在です。また、人間だけでなく全ての生命を育む重要なものです。よくニュースで、外国の水は有害な物質がたくさん混ざり、汚れているのを見かけます。そこで私は、いつも使っている水道から汚染水が出てくるのを想像してみました。その水を飲み、洗濯に使う。今では考えられませんが、調べてみると日本でも水質汚濁に関する歴史があったのです。

一九五十年から七十年代にかけて日本は高度経済成長という時代がありました。経済や産業が急速に発展する中で工場から出る排水や家庭から出る生活排水、大量のごみなどで川や海などの水質悪化が大きな問題になったそうです。その汚染水で育った海

産物などは日本人の体をむしばみ、今も健康被害に苦しんでいる方がいるそうです。公害や水質汚濁による影響を受け、公害対策基本法や水質汚濁防止法など、環境を守る様々な法律を作ったり、人の健康を保護し生活環境を守る上で維持されることが望ましい基準である水質環境基準を定めたりなど、日本全体で「綺麗な水」を作る取り組みがなされていきました。

私は、日本にこのような歴史があったことを初めて知りました。当時の写真を見ると、普通の河川や海が、白黒の写真でも分かるほど汚れており、公害病にかかった方は痩せて全く元気がない状態でした。もしも法律や基準を出さずに現在まで環境汚染をしたままだったらと思うとぞっとします。約七十年の間に人々は水質改善のために手を尽くしてきました。

矢吹町立矢吹中学校 三年 小川<sup>おがわ</sup>遥香<sup>はるか</sup>

した。その結果、今では工場から出た排水は排水処理装置によって処理されます。また自治体では生活排水を下水道などの污水处理施設で処理されています。さらに污水处理場で消毒などを施され、綺麗に生まれ変わった水が、放流されているのです。私は、とてもすごいことだと思います。しかし、そのような設備が十分に整った日本でも水質汚染についての報道をよく見るのはなぜでしょう。

私は、小学校の六年間、毎年家の近くの田んぼの周りで生物調査をしていました。学年が上がっていくにつれてだんだんと観察できる生物の種類が少なくなり、数匹しか採取できない年もありました。当時はなぜ少ししか観察することができなかったのかということとは考えませんでした。今改めて考えてみると、原因は生活排水の多さにあったのではないかと思います。七十年前の高度経済成長期でも、工場や自治体に課す法律や規定はありましたが、一般の家庭には規定があまりなかったのではないでしょう。それでも公害病などを通じて水質保護の意識が一人一人に広まって水質が改善されてきたのだと

思います。今の私たちは、排水によって汚染された水を本当に見たことがない人がほぼ大半を占めています。そのうえ、私のように日本で水質汚濁の歴史があつたことも知らない人もたくさんいると思います。機械や施設には限界があります。そのことを知らない人がこれからも増え続け、機械や施設に限界が訪れたときも変わらず生活排水を流し続けたら。それは、これまでの水質改善に携わった全ての人と汚染水の被害に遭った全ての生命を無駄にしていることと同じになってしまいます。

水は私たちにとって大切な存在です。ずっと守り続けられてきた日本の綺麗な水を少しも無駄にすることがないように一人一人が身近なところから少しずつ意識を持ち、行動すること、環境、生命、そして人々の思いを守り受け継ぐことができると思います。

## 入選

### 巡る水

福島県立会津学鳳中学校 二年 楠くすのき 凌我りょうが

私が去年まで通っていた、翁島小学校は、北には宝の山磐梯山がそびえ、南に数キロのところには日本で四番目に大きな猪苗代湖が水を湛えるところも自然が豊かなところにあります。猪苗代湖は面積一〇

ちが行ってきたのです。この十何年も継続して行った取り組みのかがあり、ついに令和元年には、全国水質ランキングで全国第十四位に再びランクインすることができたのです。

三・三km<sup>2</sup>、容積三八五九〇〇m<sup>3</sup>の湖で、平成十四年から十七年にかけて、環境省から水質日本一と評価されてきました。しかし、平成十八年からは一〇クから外され、きれいな湖とは言われなくなってきました。そこで翁島小学校では、猪苗代湖を水質日本一に戻すために、総合的な学習の時間で水環境学習に取り組むことになりました。学習するなかで、水質悪化の原因は大腸菌群数の数値が高いからだと分かり、私たちにできることとして、水質を悪化させる植物の除去や、ゴミ拾い、水を浄化させる作用のあるアサザという植物の移植などを代々の先輩た

とところで猪苗代湖の水は水道水にも使われていません。日本は地球上の様々な国の中でも珍しいことに、日本中のどこに行っても、水道から水を飲むことができ、水不足とは無縁の生活を送っています。このような国は世界中を探しても、そうそうありません。しかし、この恵まれた環境だからこそ日本人は水に対する意識が低いのではないかと思います。人間も含め、ほとんどの生き物は水がなくては生きてゆくことができないことは皆が知っています。しかし飲み水が確保できればいいという話ではありません。例えば、日本は食料自給率がとても低く、様

々な食料や飼料を外国に頼っていますが、輸出される小麦は、栽培される国の水を大量に使われ生産されていることを想像できるでしょうか。牛肉も輸入に頼っていますが、それだって、なかなかの水をくうのです。牛肉を1kg分作るには、餌などに使われるものも合わせて二〇六〇ℓの水が必要になります。日本人の一日の水の使用量は平均で約三〇〇ℓなので、牛肉1kgに実に六十七日分の水が使われているのです。衣類もまた然りです。一枚のTシャツを製造するために二九〇〇ℓ：このように想像を働かせていくと、飲み水以外に大量の水の恩恵を受けて私たちの生活が成り立っていることが分かってきます。

さてこの大切な水はどこから来ているのでしょうか。今、外には雪が降っています。この雪は溶けて川となり、やがて海に流れます。いつしか蒸発して雲となり、豊かな森に降る雨となる。そう、水は世界中を巡り巡っているのです。つまり、私たちが水を汚せば汚れは世界中に広がっていくことがいえるのです。小泉八雲（ラフガディオ・ハー

ン）は来日した際に思いやり豊かでとても素晴らしき民族と評していました。今もその思いやりはあるのででしょうか。自らの行いは、その行いが良いことだろうが悪いことだろうが、絶対に帰ってくるものだと思います。情けは人のためならずというように、（自分が良ければそれでいい）ではなく（誰かのためは自分のため）というような、思いやりが大切だと思います。なぜなら、猪苗代湖が汚れた原因である大腸菌群は、主に家庭からの生活排水のせいだったからです。私は、一滴の水を大切にします。私はできるだけ水を汚さないように心がけて生活します。私は、食べ物でも衣類でも、今自分にとって必要な分だけを買ってもらい、大事に使います。まずは自分でできることを積み重ねていくこと。そうすれば、猪苗代湖がきれいになったように、巡る水もきれいなまま世界中に行きその恩恵をみんなが享受できるのではないのでしょうか。

## 入選

### 矢吹町と水

矢吹町立矢吹中学校 三年 黒田<sup>くろだ</sup> ゆきの

いつも私たちの身近にある、水。家事や食事、農業などで使われており、生活する上で必要不可欠な存在だ。

私の住んでいる町は、「田園のまち」と呼ばれるほどの豊かな田んぼが広がっている。小学校では田植えの体験なども行った。そんな当たり前にある田んぼだが、ほんの数十年前までは想像もできないような景色だろう。今ある「当たり前」はたくさんの方の努力によって作られたものである。

私の町、ここ矢吹町は福島県にあり、日本三大開拓地の一つである。日本三大開拓地とは、戦後大規模な国営開拓事業が成功した土地のことだ。元々矢吹町には、荒涼とした原野が広がっていた。水利が悪いこの地は、なかなか発展しなかったという。昔、この町には水が通っていなかったのだ。水がな

いと農業が行えず発展しない。今の矢吹町は、水のおかげで作られたものであった。その後、水を得ることが大きな課題となった。矢吹に住む人々は様々な案を考えたが、なかなか実現することはなかった。長い間人々を苦しめていた水不足だったが、ようやく解決策が出た。羽鳥ダムの造成である。その後も様々な苦労を重ね、昭和三十一年に完成した。ダムからの通水が開始すると、瞬く間に農業が発展していったそうだ。こうして、田園のまちは作られたのだ。

私は小学生の時、羽鳥ダムに見学に行ったことがある。日本の中でも大規模なダム湖の羽鳥湖は「ダム湖百選」にも選ばれているという。大量の水が勢いよく流れていく様子は少し怖かったのを覚えている。また、ここで流れている水が水道水として使わ

れると考えると、少し不思議な気持ちになった。このダムのおかげで矢吹町がある。そう思うと水を大切にしようと思えるようになった。

こうして考えると、水の大切さについて改めて気づくことができた。しかし、水を大切にするには、どのようなことを行えばよいのか。私は今までの生活の些細なことから変えていくべきだと思う。例えば、手を洗うときには一度水を止める、髪や体を洗うときには桶に水をためたり、節水用のシャワーヘッドを取り付けたりするなど日頃からできることはあると思う。私達は身近に水があるせいで水を大切にしている、という気持ちが薄れているような気がする。水がないとどうなるのか、水のおかげでどう変わったのか、などと考えると、水の大切さに気づくことができると思う。日本は水に恵まれているが、海外には飲み水さえ手に入らない場所もある。いつでも水が手に入るといふありがたさを考え、その気持ちを大事にしていきたい。

私は自分の町の歴史から、水についてよく考えることができた。いつも当たり前にある景色は、たく

さんの努力が積み重なった大切なものだということにも気づくことができた。今あるこの生活は、昔の人の努力と水のおかげで成り立っている。その努力を無駄にしないためにも、自分には何ができるかを考えていきたい。今、当たり前にある水。しかし、水が手に入るといふことは、とてもありがたいことだということを忘れてはいけない。水を大切に思う気持ちを忘れず、小さなことから心がけていきたい。

「田園のまち」矢吹。しかし、この田園を作るためには水が必要だった。長い時間をかけ、ようやく届いた水。私達が使っている水には、そんな歴史があったのだ。水があることを当たり前だと考えてはいけない。これからは水があることに感謝しながら、大切に使うていきたい。



## 入選

### 水が私たちのもとまで来る道のり

矢吹町立矢吹中学校 二年 西山にしやま 璃優りゆう

みなさんは、身近に存在する水を大切にしていますか。また、その水はどこから来ているのでしょうか。

私の暮らしている矢吹町では、ダムのおかげで水が流れて来ています。昔は、矢吹ヶ原と呼ばれていました。当時は水が少なく、争いが起き、血を流しながらも争いは続いたそうです。このことがきっかけで「星吉右衛門」と言う人物がダムを造ろうと考えたのです。今から百三十六年前明治十八年のことでした。彼は、矢吹町だけでなく多数の町も使用可能にするため、県に意見を出し、人々の協力と後世の人達の思いで約七十年後ついにダムが完成しました。

それは、羽鳥ダムといい、「星吉右衛門」は完成したダムを見る事ができませんでした。彼らは、今

生きている私たちのために、これから生きる人たちのためにこのような贈り物を残してくれたのだと、私は感謝の気持ちしかありませんでした。きっと、それはこの町だけではありません。「星吉右衛門」は、当時生きていた人々のためにダムを考えたのかもしれないが、今後、生きていく私たちの生命をつなぐ事にも関わってきます。人の命を助けようという行動に出たこの人物は、今でも町で有名に知られており、そのダムは、見学学習にも活用されています。

「生きる」という「思い」が「願い」がダムに込められている、そう思いました。だからこそ、ダムを大切にし、支えていくのだと改めて感動しました。今もこの「思い」が「願い」が受けつけられているのではないのでしょうか。

羽鳥ダムは、田んぼの水に使用されているので私たちの暮らしの中では、米として出されています。いつも美味しいご飯が食べられる、その事実にまた、感謝の気持ちがあふれてきました。水が無ければ食物は作れないので、田んぼだけではなく畑など、多くの食物が得られなくなります。まさに、水は人間だけではなく、動物や植物にも生きていく上で必要不可欠なのです。それを踏まえると、昔、矢吹ヶ原で生きていた人は、どれだけ苦しい思いをしていたのか、私には想像がつきません。

そして、私たちの日常で使われている水は堀川ダムから流れてきています。堀川ダムも私たちの生活を支えてくれている重要なダムです。このダムは羽鳥ダムとは別の目的で造られています。矢吹町や多数の町にも水を送ってくれています。二つのダムと水が発展の町へと、田園のまちへと導いたので

す。

私たちに出来る事、それはやはり節約です。ダムの水を多く使用している一つがなんと矢吹町だったのです。水の使用を少しでも減らすには、日常での

水の量を節約していくしかありません。すぐに取り組める対策なのでみなさんも水を使用する時は、節約を心がけて下さい。水の使用する量が減少すれば環境のためにもなります。

水は、このように命をつないでくれるのですが、時には命を奪ってしまうものでもあります。

「東日本大震災」では津波でたくさん命が奪われてしまいました。水は災害の一つであり、洪水や氾濫の被害もあります。水も自然でありながら、いつどのような天災が起きるかわかりません。しかし、人間の手で汚された川や海を通じて命を落としている人もいます。海の生物もプラスチックのゴミで生きていけなくなってきました。災害の一つである水でも私たちの生活面を見直していけば救える命が、増えるのではないのでしょうか。

水も私たちも支え、支えられなければ人間だけではなく、他の動物も命を落とすでしょう。水は自然と人間の力で私たちのもとまで来ているのです。

## 入選

### 心の雨

葛尾村立葛尾中学校 三年 松本<sup>まつもと</sup> 心美<sup>ここみ</sup>

「心美！虹が出てるぞ。」  
父が私に向かって叫んだ。家の中にいた私は庭先に駆けだした。

「2本も虹が架かっているね。今日はラッキーだ。」

父と雨上がりの空を眺めながら会話を交わした。二本のカラフルな虹を見つめっていると、さっきまでの雨も許せてしまうほどだった。このところずっと雨が降っていて、どこにも出かけられないし、退屈だったのだ。今日は良いことがある気がして心が晴れた。

しかし、その小さな幸せを感じる中で、熊本、鹿児島、福岡、佐賀、長崎、岐阜、長野に集中した大雨が続く「令和二年七月豪雨」をもたらしていた。私の住む福島県の葛尾村ではそこまで雨も降らず、

そのニュースが異国の地のことのように思えていた。私はいつも通りに生活しているけれど、他の地域の方々は困っていると思うと胸が苦しくなった。テレビのニュースに映し出される家やお店は水浸しになっていて、まるで映画の世界が飛び出してきたようだった。部屋の窓から時おりのぞく太陽が嘘のようで、悲惨な映像を見るたびに悲しくなり、自分には何ができるのかと考えていた。

昨今の地球温暖化の影響で大雨が降りやすくなっているというニュースを耳にした。雨は植物を育て、地を潤す。とても重要だし、私たちにとって、なくてはならない大切なものだ。しかし、環境の変化によっていつ、どこで自然災害が起こってもおかしくない状況にある。貴重で、嬉しいはずの「雨」が時には残酷な爪あとを残している。

そんなときに社会の授業で災害について学習した。また、相双建設事務所の方が「集中豪雨から命を守るために」という講話をしに来てくださった。その中で、集中豪雨の発生に伴って自然災害が発生することを知った。道路の浸水や河川の氾濫、土砂災害。災害が一番多く発生するのは、七割の確率で山であると聞いて驚いた。私の住む葛尾村は山に囲まれていて自然豊かなのかな村だ。山より川の方が危険だと思っていた私は、話を聞いて怖くなった。テレビで見た光景が私たちの住む葛尾村でも起こるかもしれない。他人事のように感じていた出来事が一気に現実味が増した。そして、土石流のスピードは時速二十キロメートルから四十キロメートルにも及ぶというのだ。大雨が降ったら、家の周りにもいつ起きるかわからない。日ごろから気象情報に注意し、危険な箇所を確認しておくことと、避難場所を把握しておくことが大切だと改めて感じた。災害が起こったら、手遅れになる前にすぐに家族と安全な場所に避難し、待機しようかと心に決めた。

大規模豪雨で命を落とした方々、家屋が流されて

しまった方々、元の生活に戻るには大変な時間がかかるかもしれない。今この瞬間も不便な生活を余儀なくされている方がいるのだ。葛尾村にも雨が降ると、豪雨被害のことを思い出すようになった。今なお続く、仮設住宅での避難生活のニュースを見ても何もできない自分が無力に思えた。

でも、いつかみなさんの心にもきれいな虹が架かると信じている。雨が降ったら、いつか晴れる日が必ずやって来る。止まない雨はない。東日本大震災の支援を受けて育った私たちが今度は助ける番だ。自然災害を防ぐために、温室効果ガスを出さないよう生活に気を付けていこう。ガスは廃棄物の焼却によつて排出されるためこれからは物を大切に扱っていく。電化製品や、車の使用も必要なのかを考えて計画的に使っていきたい。日本全国の方々が笑顔でいられるように自分にできることを少しずつして行こう。

被災地のみなさんの心の雨がやみ、虹が架かりますように。笑顔が溢れることを願って。

## 入選

### 大切な地下水

私は温泉が好きだ。私というか私の家族全員が好きだ。そのため、私も小さい頃から主に母に連れられてよく行った。温泉には成分によって、普通のお湯につかるより体が温まる、肌がすべすべになるなど、体によい様々な効能がある。なんとといっても、湯船が広く開放感があるのがよいところだ。また、お湯が多く、浮かんでいる感じがするのも気持ちがいい。皆さんはご存じだろうか。この温泉は地下水が火山の熱で温まったものであるということ。そして温泉の成分は温泉が湧き出ているところの土に含まれている成分がお湯に溶け出したものだということ。たとえば体が温まる温泉には塩の成分が入っている。こちら辺で言うと熱塩の温泉がそうだ。このように、地下水には水道水と違ってさまざまな成分が混ざっている。

福島県立会津学鳳中学校 二年 丸山まるやま 志穂しほ

地下水は意外と身近な様々な場所で使用されている。たとえば私の地元の喜多方市でいうと、商店街の道路の下に地下水を流すパイプが埋めてあって、雪を溶かすのに一役かっている。これにより、雪道がとても歩きやすくなっている。祖母から聞いた話だが、地下水は一年中温度が変わらないため、雪を溶かすことができるそうだ。私の家でも地下水で雪を消しているのだが、水道水で試したこともあるそうで、

「そのときは全然消えなかった。」  
と言っていた。その他にも私の家では、料理や洗濯など日常生活の中のような場面で地下水を使用しており、その分水道代がういている。特に、水をたくさん使う洗濯や雪を溶かすための水を地下水にすることで家計も大変助かっている。その上、夏に水を

飲むときも、管が熱せられることで温度がぬるく感じられることがあるが、地下水は前でもいったように、一年中温度が変わらないため、夏でも冷たくて美味しい水を飲むことができることもとてもよいところである。このように、地下水は私の毎日の快適な生活のためにはならないものである。

しかし、その大切な地下水が出なくなってしまうことがあった。私は地下水が出なくなってしまうことがあるのか心配になり、調べてみた。

インターネットで調べたところ、地下水も枯れてしまうことがあるそうだ。その原因は地下水の使いすぎによる地盤沈下が大きいそうだ。私は、地下水は半永久的に出てくるものだと思っていた。そのため水道代のかからない地下水ばかり使っていたため、これを見てとてつもないショックを受けた。「使い過ぎ」ということに関して身に覚えが多々あったからだ。一度出なくなるともう一度掘るのに大きなお金がかかるそうだ。しかも、お金をかけて掘っても、水が出ないこともある。そのことを知り、私と母は顔が青くなった。

数日後近所の水道屋さんが地下水の蛇口を見に来てくれた。私は大切な地下水が枯れてしまったのではないかと思い、ドキドキしながらいっしょに話を聞いていた。水道屋さんはおもむろにドライバーを取り出した。それから蛇口の管にドライバーを差し込み、何度かつついた。すると水といっしょに赤っぽいものが出てきた。よく見るとサビだった。つまり、水道管にサビがたまっていただけだったのだ。しばらくすると地下水は以前のようにとうめいになり、いきおいよく流れた。

それからは、母も祖母も私も地下水を必要以上に使うことをやめた。もちろん水道水も大切な水のため、節水は常に心がけている。これらの出来事を通して私は水の大切さ、そしてどのようなものであっても限りがあつて、使い過ぎるとなくなってしまうのだということを再確認することができた。これからも、大切な大切な水をずっと使ってゆけるように節水を続けてゆきたい。

## 入選

### 水の大切さ

「水」は人々の命を支えているとても重要な資源だ。日本に暮らしていると当たり前のように使っている、きれいで安心な水、水が無くて困るといふことはほとんどないが、世界では「水不足」が問題となっている国がたくさんある。

アフリカをはじめとする発展途上国地域では、衛生環境が悪く、水も汚れていて安心して飲める水が近くになく、池や川などから水を汲んでいるそうだ。「安全な水」を汲むために毎日数キロメートル往復していて、その水汲みの仕事は、女性や子供たちが行っているという。同じ地球上に住んでいる私達とはかけ離れた生活にショックをうけた。今も熱い中数キロメートル水を求めて歩いている方々のことを考えると、改めて水の大切さを感じる。また、水汲みのために学校も通えない子供たちがいると聞

福島県立会津学鳳中学校 二年 宮野<sup>みやの</sup> はるな

き、悲しいなあと思った。汚水処理されていない水をそのまま飲んだら身体に悪いし、最悪の場合、命を落としてしまう可能性もある。安全な水の確保は人々の健康や命の問題につながっていく。実際、世界では毎年百八十万人の子供たちが、水と衛生設備の不足で起こる健康問題で命を落としているのだという。これは本当に深刻な問題だと思う。早く水の環境が整って、だれでも安全な水が得られるようになってほしい。そして、子供たちがこれ以上、命を落とすことのない世の中になってほしいと思う。また、長い道のりを歩く水汲みからも解放され、子供たちが元気に学校へ通えるような未来になってほしい。

日本のように恵まれた環境にいる私達は、水道をひねるだけで安全できれいな水を得ることができ、

苦勞をしないで、一日にたくさん量の量を使っている。日本人一人当たりの生活用水の使用量は、世界第二位という。私はこのことにとっても驚いた。考えてみれば私も水を大切に使用していなかつたなど反省することがたくさんある。例えば、歯みがきの時にうっかり水を流しっぱなしにしていたり、お風呂のシャワーの水を必要以上に使っていたことがあつたりした。節水のためにどんな工夫をしたらよいか考えてみた。まず、歯をみがく間は水道をとめること。お風呂でのシャワーの使い方を考えること、お風呂の残り湯を洗たくの時に再利用すること。食器を洗う時はたらいなどに水をためて洗うこと。植物の水やりは雨水などを利用する、などだ。少しのことでも毎日の積み重ねでずいぶん変わると思う。改めて節水を心掛けようと思う。

日本でも自然災害などの緊急事態が発生したとき、水のない不自由な生活を強いられることが多い。テレビでも、給水所に行列ができる姿をよく見かける。水不足の生活が長引くほど、避難所で生活している人たちは苦しい日々を送ることになる。水

が使用できなくなると、飲料水もそうだが、お風呂も入れないため衛生環境の悪化で病気になる人も多い。また、感染症も広がる。

本当に水はとても大切な資源だと改めて感じる。その限りある資源を私たちは大切に使うよう心掛けなければいけない。もう一つ大切なことはなるべく水を汚さずに使うこと。石けんの使い過ぎや食べ残しを減らすことなど一人一人が気を付ければ地球環境にも優しく、地球温暖化防止につながる。これからの未来のために、一人一人が気を付けていくことが私たちの責任であると思う。生きていくうえで大切な水、今日も使えることに感謝して過ごしたい。



## 入賞

### ライフライン

ライフラインとは、日常生活に必要な社会インフラのことで、私たちが生活していく上でなくてはならない物の事をいいます。それは主に電気、ガス、水道、通信、交通が挙げられます。この中のどれか一つでも欠けている生活は少し前までの私には考えられませんでした。

二〇一九年十月十二日台風十九号が福島県をおそいました。令和元年東日本台風です。

その日は、朝から雨と風が強く、ケイタイの警報が鳴りやみませんでした。私の住む家の近くには、川があります。川はいつもより水位が高く、黒くにごった水が今にもあふれ出しそうな勢いで流れていました。その夜はマンションに住む祖母の家に避難することにしました。テレビのニュースで近くの川が氾濫したことを知り私は、家が流されていないか

と心配になりました。次の日の朝、父親から

「家が大変なことになってるぞ。」

と連絡がきて急いで戻ると、川から流れてきたゴミや木の枝、漂流物が道路や庭先に散乱し、家の中は泥だらけになっていました。ニュースでしか見たことのない光景が目の前にあり私は頭が真っ白になりました。家の中の泥を洗い流そうと蛇口をひねると水が出ません。台風の被害で水道も止まってしまった様です。幸い母親がお風呂に水をためていたのと水の出る地域の方から水を頂き、家の中の泥をかき出し、掃除をすることができました。しかし大変だったのはその後でした。食事をする時は水があまり使えないので洗い物をできるだけ少なくするために紙皿を使ったり、お皿の上にラップをし汚さないように気を使いました。またトイレを流すのにも水が

いわき市立平第三中学校 二年 百崎ももざき 蓮人れんと

必要でした。本来は飲み水に使えるはずの水をトイレに使うたびに、もったいないと思いました。お風呂について水害のあった次の日は、とても暑く掃除をしていると滝のように汗をかきましたが、水がとまっているいるためシャワーで流すことができませんでした。こんなにも生活の中で水を使うことを意識した事はありませんでした。

「水が出るかも」

と言われ、半信半疑で蛇口をひねると、少しではあるけれど水が出ました。水が出た時はとても感動し、幼い頃水遊びで砂山のトンネルを水が流れてきた時の興奮を思い出しました。

後で話を聞いたら地域に水を送るポンプも浸水被害にあい、それを直すために多くの人たちが休まず復旧作業をして下さったことを知り、感謝の気持ちと水に対する興味が大きくなりました。

蛇口をひねれば水が出るのが当たり前だと思っていた私は、この水害での経験は強く心に刻まれ、改めて水の大切さ、それを支える人たちの存在に気づかされました。

ライフラインを直訳すると命綱です。まさに命に関わるのが「水」です。私は今、蛇口をひねるたびに「ありがとう」という気持ちになります。

今年の夏は、コロナウイルスの影響で海水浴ができません。しかし、八月に入り連日の猛暑となり、私の家では、少しでも涼しくなろうと、庭で水遊びをしています。弟は、プールに水をため気持ち良さをうに水に入っています。庭の植物も、暑さに負け疲れている時に水をあげると元気を取り戻します。生活に欠かせない水は、人を楽しませてくれる水となり、今日も、私たちの近くにあります。

## 第43回「全日本中学生水の作文福島県コンクール」の概要

今回は、県内の中学校14校から414編の作品の応募があり、その中から入賞者15名、学校賞4校を選定しました。

<応募作品数>

(単位：編)

中学校名	2学年	3学年	計
会津若松市立一箕中学校	4	13	17
いわき市立大野中学校		1	1
いわき市立平第三中学校	6	3	9
いわき市立三和中学校	8	4	12
葛尾村立葛尾中学校	1	2	3
郡山ザベリオ学園中学校	1		1
相馬市立中村第二中学校	1		1
棚倉町立棚倉中学校	1		1
西会津町立西会津中学校		1	1
二本松市立二本松第三中学校	14		14
福島県立会津学鳳中学校	88		88
福島市立立子山中学校		3	3
南会津町立南会津中学校		2	2
矢吹町立矢吹中学校	137	124	261
計	261	153	414

(学校名50音順表記)

<学校賞の授与>

優秀な作品を多数応募した学校や、コンクールに積極的な取組をした学校に対し学校賞を授与しています。今回は、以下の4校を学校賞に選出しました。

**いわき市立三和中学校、葛尾村立葛尾中学校、福島県立会津学鳳中学校  
矢吹町立矢吹中学校**

(学校名50音順表記)

参加していただいた中学生の皆さん、そして御協力いただきました先生方に、厚くお礼申し上げます。このコンクールは、来年度も実施する予定です。たくさんの御応募をお待ちしています。

# 福島県、 復興計画 ふくしま

福島県企画調整部  
復興・総合計画課  
電話 (024)521-7123

HP:  で検索

※ふくしまの水に関する情報を掲載しています。